

外国人親子を応援

茅野のNPO法人日本語教室



茅野市のNPO法人「ねこじゃらし茅野」が週1回、就学前の外国人の子どもを主な対象とした日本語教室を市内で開いている。地域の母国語学校が不況の影響で閉校となり、日本の小学校に入ることになった子どもたちも通う。「入学前に平仮名や片仮名を身に付けさせたい」とする親たちの願いに応えようとにも、親自身にとっても暮らしの情報を得る場となっている。

* * *

「ほ・ん」。平仮名の書かれたカードを子どもたちに見せながら、NPO代表の岡元春美さん＝中大塩＝が単語を

茅野市のNPO法人が開いている日本語教室。岡元さんが平仮名のカードを見せながら子どもたちを指導する。

母国語学校閉校…学ぶ場に

読み上げていく。24日の教室には、日系ブラジル人やペルー人の子ども4人が出席。子どもたちは教材に従って「ねこ」などと単語をまねたり、岡元さんが見せたカードの数字を日本語で答えたりしていた。

在住外国人の支援に取り組むNPOは、日本語学習を希望する外国人のために、市に「外国の人たちが集まりやすい場所を貸してほしい」と依頼。塚原の市家庭教育センターを借りることができ、8月から毎週土曜日に教室を開いている。午前10時から1時間で、受講料は1回100円に抑えた。

4歳の長男がいるフェルナンダ・シロキさん(32)＝諏訪市沖田町＝は、岡谷市の母国語学校に長男を通わせていたが、今春閉鎖となったため、今は日本の保育園に預けている。「ブラジルは治安が悪い。子どもを安全を考えないと日本で教育を受けさせたい」と考